学校だより　　学校スローガン「殻を破れ！一歩前へ」

西有家中 No１８

令和５年　３月２日
南島原市立西有家中学校
校長　本多　洋二

いよいよ最終月３月！

早いもので今年度の最後の月となりました。「終わりよければ全てよし！」という言葉がありますが、年度末のまとめと次年度の準備に全校生徒・全教職員が取り組んでいます。

さて、来る３月７日・８日は、公立高校後期選抜が実施されます。受検する生徒は 18 名、自分の夢の実現への第一歩として、当日は、悔いが残らないように精一杯力を発揮してくれることを願っています。第一志望校への全員合格を祈念しています。

新入生入学説明会開催！

去る２月１７日に令和５年度４月に入学予定の６年生（５６名）と保護者対象に入学説明会を実施しました。初めに保護者に対してメディア講習会を長崎県警の方を招聘し、SNS の危険性とスマホ依存性について講話をしていただきました。

６年生の児童には、保護者が講習会を受けている間、並行して、授業風景を参観してもらいました。新入生の不安な気持ちを少しでも小さくできたらと考え、今年度から実施しました。中学校の雰囲気を少しでも感じてもらい、安心して４月から登校してくれることを願っています。

中学生の授業を真剣に見入る児童

～全校生徒の思い～

生徒会活動の一環で、全校生徒がペットボトルキャップやプルタブを集め、ポリオワクチンや車椅子を寄付する活動を行っています。今回、ペットボトルキャップ１４０ｋｇ、プルタブ２７．２ｋｇが集まりました。ポリオワクチン３５人分買えるということです。世界中で苦しんでいる人たちの救いに少しでも役に立ったと思います。

〈店長から感謝状を受け取る志岐会長。〉

ÆON

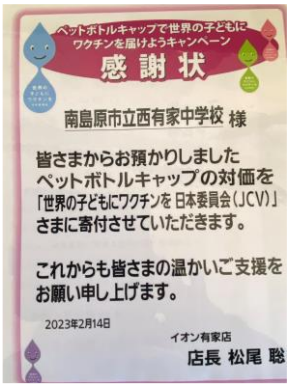
感謝状

南島原市立西有家中学校様

あなた方は、社会貢献活動の一環として
イオン有家店が取り組んでいる「プルトップ」を集め、
車椅子を福祉施設に進呈する企画にご協力していただき、誠に有難うございます。
27.2 キログラムのプルトップを当店に協賛して頂いたことは、社会貢献に対する意識の高さの賜物です。
ここに感謝を込めて感謝状を贈与致すとともに
今後ともご協力をお願い致します。

令和５年２月14日

イオン九州　イオン有家店
店長　松尾　聡



ペットボトルキャップで世界の子どもに
ワクチンを届けようキャンペーン

感謝状

南島原市立西有家中学校 様

皆さまからお預かりしました
ペットボトルキャップの対価を
「世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）」
さまに寄付させていただきます。

これからも皆さまの温かいご支援を
お願い申し上げます。

2023年2月14日

イオン有家店
店長 松尾 聡

スマホ依存について熱心に聞き入る保護者の方々。

皆楽しみ！居住地交流

去る２２日に特別支援学校に在籍する中村陣さんと居住地交流を実施しました。本校の１年生も交流を楽しみにしていました当日は、和やかな中楽しく活動していました。

＜本校生徒と楽しそうに活動する陣さん＞

３月の主な行事

３月

７日（火）・８日（水）公立高校後期選抜
１０日（金）　立つ鳥運動・卒業式会場設営
１３日（月）　卒業式予行練習
１４日（火）　第７６回卒業証書授与式
１５日（水）　公立高校後期選抜合格発表
２３日（木）　大掃除
２４日（金）　修了式・離任式

４月　７日（金）令和５年度始業式
４月１０日（月）令和５年度入学式

ブレークコーナー

自分の考えや人の考えの受け売りです。気軽にお読みください。

以前、ある教育雑誌に気になる話が載っていましたので紹介します。人材育成研究家の永谷研一氏が書かれた文章です。

（右上へ）

『親から子へ～誤った声かけ～』

お子さんが、テストで９０点を取って帰ってきました。こんな時、どのような声かけをしますか。

「頑張ったね。もうちょっとで 100 点だったね」

もし、このような「励まし」がお子さんの自己肯定感を下げると言ったら、驚かれるでしょうか。ではどこが悪いのでしょうか。この声かけの問題点は、「もうちょっとで」という部分。正解した９０点の部分ではなく、できなかった「１０点の部分」に注目しています。

これはテストに限った事ではなく、日常生活においても、子どもたちは「できないこと」ばかり指摘され続けています。「片付けなさい！」「早くしなさい！」「宿題しなさい！」言い出したらきりがありません。

自己肯定感とは、自分は大切で価値ある存在だと、自分を自分で認めて自信がある状態です。自己肯定感が高い人は何事にも前向きにチャレンジしていけるのに対し、自己肯定感の低い人は「どうせうまくいかない」とマイナス思考で行動を起こすことができません。

自己肯定感を育むには絶対評価が必要です。なぜなら、他者とは関係なく「自分が日々成長している」と知ることで自分を認めることができるからです。

できない部分、自分がダメな部分ばかり大人から指摘されると子どもは「ダメな部分」に注目するようになります。自分の欠点ばかりに目がいくようになるのです。

大切なのは、大人が子どもの「できたこと」に目を向けるように意識をすることです。

９０点のテストを持って帰ってきたら、「すごいね！勉強を頑張っていたもんね」と結果ではなく「プロセス」を褒めてみる。たとえ点数が悪かったとしても、点数ではなく他のいいところがないか探してみる。字を丁寧に書いているとか、一生懸命に計算した跡があるとか「できたこと」に注目して伝える。そうすることで、子どもはプラス思考に変わっていきます。